環境パートナーシップちば だより

―つながれ ひろがれ―

第１３２号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

SDGｓ達成のためのESD担い手育成事業

ＥＳＤ地域リーダープログラム発表会　報告

■日　時　2020年2月3日 9:30～12:30
■会　場　千葉市文化センター会議室
■参加者　21名
■内　容

船橋（千葉）・成田の２会場で３回にわたり実施されたプログラムづくりを経て、ESDの視点を入れた環境学習プログラムの発表会を開催しました。

この日の午後に開催される「ESD地域リーダーが活躍できるプラットホーム」を考えるメンバーにも聞いていただき、一人10分間の発表でした。13の発表プログラムテーマは、とても多彩なプログラムとなりました。プログラムの題名については、２ページの「ESDプログラムガイドブックができました」をご覧ください。

その後、参加者全員による質疑やアドバイスなどもいただき、参加者にとって次に繋がる貴重な時間になったと思います。

また、これらのプログラムを「ESDプログラムガイドブック 2019」として印刷製本し、県内環境行政担当などに配布します。更に、NPO環パちばホームページ（https://kanpachiba.com/）にも公開する、という主催者の提案を示して、プログラム作成者から承認が得られました。ぜひ次年度ESD地域リーダー育成にもご活用ください。

（文責：桑波田 和子）

第３回 SDGsを進めるESDプラットホームづくり　報告

■日　時　2020年2月3日　13:30～16:30
■会　場　千葉市文化センター会議室5
■参加者　27名　ファシリテーター 1名
■内　容

今年度最後の会議となる３回目は、まず同日午前中に開催された「ESD 地域リーダープログラム発表会」の報告と参加されたプラットホームの方の感想などいただき、午前中に参加できなかった方とも情報を共有しました。

その後は、第２回目目（10月７日）ワークショップのふりかえりを行いました。ふりかえりを基に、環境パートナーシップちばから、プラットホームの提案をたたき台として、ワークショップに入りました。

グループは、2 回目と同じようにキーワードを「目的」「機能」「条件」「運営」として、４グループに分かれ、総勢28名で取り組みました。「目的」のグループでは、「使命：ミッション」とした方が考えやすいとなりました。ワークショップ結果をまとめると、以下のようになりました。

【使命（ミッション）】：持続可能な社会の実現を目指して、課題を持った人・組織が集まり、それぞれの課題解決に向けて、いま以上の力を発揮できるような場をつくる。

【機能】：学びの機会と場のコーディネート。出会いの機会。人材の育成。

【条件】：ヒト・モノ・カネ・場所（フィールド）・情報の５側面で整理

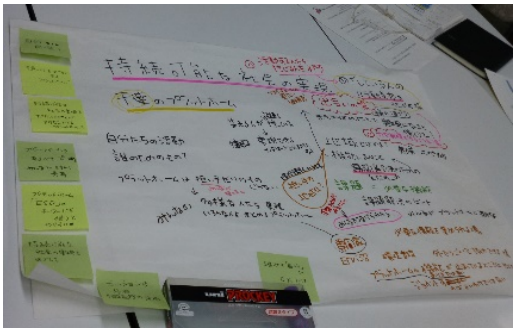
※フィールドとネットワークが特に重要

【運営】：メンバーが営業所的な役割を果たす。信頼、実績の蓄積と見える化がだいじ。

などが挙げられました。

主催者側としては、「機能するプラットホーム」に向けて、多くの方の知恵とおカをお願いしたいと思います。プラットホームづくりのメンバーが、それぞれのキーワードに関わり、具体的に内容を詰めていただけるように進めていく所存です。そして2020年度事業として、具体的な活動をお示し出来るようにしたいと思っています。

（文責：桑波田 和子）



ESD プログラムガイドブック 2019 ができました

「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」の中の「ESD 地域リーダー育成事業」の２年目では、２月３日のプログラム発表会を経て、最終的に以下の 13 の「ESD の視点をもったプログラム」を作り上げることができました。

・自然再生協議会委員が土木技術者に伝える自然再生地の使い方　・浦安三番瀬をもっと知りたい！　・可燃ごみを減らそう！生ごみたい肥化プロジェクト　・こどもたちの力を借りて地球を救おう！ こどもは世界を癒す、想像力の種　・昔カレンダー「二十四節気」から学ぶ地球温暖化　・紙博士になろう！～調べて作って考える「私たちのくらしと紙」～　・環境活動と市民活動のコラボ！　生ごみの堆肥化（ごみ減量）と地域の関わりを考える（防災・町会活動・介護・仲間づくり・子ども食堂 etc.）　・アップサイクルで知るモノの価値　・森林と私たち　・環境活動家グレタ・トゥーンベリさんとめぐる“＃未来のための金曜日”の旅　・防災からたどる SDGs の道　・１反歩からはじまる環　・親子で学ぶ SDGs・ESD

タイトルを見ただけで、受講生の皆さんのさまざまな想いや熱心さがお分かりいただけることと思います。

出来上がったプログラムは、「ESD プログラムガイドブック 2019」としてとりまとめ、３月末に環境パートナーシップちばのホームページ上でも公開する予定です。このプログラム集は、昨年度作成した「ガイドブック 2018」と同様、（環パ事務局にご連絡の上）実際にお使いいただけますので、ご活用ください。また、ご利用になっての感想やご意見なども、環パ事務局にお寄せいただければ幸いです。

この「だより」が皆さんのお手元に届くころには、多分ホームページに掲載されていると思います。ぜひ、ご覧になってください。（文責：小倉 久子）

ESD 地域リーダー育成講座に参加して

ガールスカウト千葉県第 63 団　柴田 加寿子

この事業に参加し、ESD の視点を持ったプログラムを作り上げていく中で得たことのひとつは、自分自身の環境に取り組む姿勢が変わったことです。プログラムをブラッシュアップしていく中で、皆さんの発表や石井先生のアドバイスから刺激を受け、視界が広がっていくのを感じました。しかし、プログラムの見直しをするほどに次々と課題が見つかり、ゴールが遠のいていく思いもしました。もしかして実践した後に次の段階が見えてくるのかと気づき、子どもたちと早くこのプログラムに取り組んでみたいとも思いました。

もうひとつの嬉しいことは、各々のフィールドを持って活動を続けている方々とのつながりができたことです。今年のガールスカウトの新年集会ではふろしき研究会の村田さんに講師をお願いして、身近なことから取り組む SDGs のヒントをいただきました。このような繋がりを広げながら、これからも学びを深めていきたいと思います。

温暖化防止うらやす　島野 圭司

「ESD 地域リーダー育成講座」への参加は私にとって大変有意義のものとなりました。得られた成果を次のように挙げてみました。

1．SGDs を学び、気候変動に関する目標と他の目標との関連も考察でき、俯瞰的に物事を見ることの大切さに気づかされた。
2．ESD を通じて育みたい「能力」、「価値観」、大切にしている「学びの方法」を知り、学習プログラムを作る上でのポイントを学ぶことができた。
3．自身の学習プログラムに講師、受講者の方からアドバイスをいただき、プログラムのブラシュアップという成果が得られた。
4．さまざまな環境学習プログラムを知ることができ、環境学習を実践されている方の体験も直接伺うことができた。

今後、ESD プラットホームも作られるということで、参加された皆様との交流が続くことを期待しています。

千葉市幕張本郷公民館「エコな料理教室」

令和２年２月22日、千葉市環境教育講座として、幕張本郷公民館で「エコな料理教室」を実施しました。このご時世でもあり、最初から手洗いはみんなでしっかりしようと横山さんの提案で、エコではないけれどペーパータオルも公民館に準備してもらっていました。参加者は、低学年のお子さんを連れた親子２組、大人１名の５名でした。メニューは、ロールチキン・ポテトサラダ・ロールおにぎりをワンプレートでいただく「くるくるプレート」です。鶏胸肉を観音開きに切り開き、海苔とチーズをのせてくるくる巻いたロールチキンは、子どもたちも興味深々！お母さんと一緒に、上手に作っていました。エコな点は、チキンとサラダに使うじゃがいも、スープを「同時調理」することで、別々に作るよりも省エネを達成できることです。煮込む時間も、沸騰して５分。その後は火を止め、余熱で調理します。もちろん、生ごみを最大限減らしたり、水を大切に使うよう、気を付けました。子どもたちは、水をジャッと出すお母さんに「水出しすぎ」と注意してくれました。１人で参加の女性も、最初から「ごみを減らすのを頑張る！」と宣言、生ごみの少なさは、群を抜いていました。また、手洗いの意識をみんなでしっかり共有できるよう、子どもたち二人に手洗いを歌を交えて教わったのが、とても良かったです。少ない人数だからこその一体感があったように思いました。公民館のアンケートでは「普段、何も気にせず水やエネルギーを使っていると改めて思いました。」という感想もあり、楽しく作って食べるだけではなく、意識してくれていることが分かりました。　　（文責：廣田 由紀江）

浦安市中央公民館「暮らしのエコ講座」

浦安市中央公民館で、公民館主催・環境パートナーシップちば企画の「暮らしのエコ講座ー楽しく学んで かしこく暮らそうー」を開催しました。小倉が講師を務めさせていただき、定員 20 名のところ、15 名の方に参加申し込みがありました。

【第１回】2020 年２月７日（金）

「プラスチックごみについて考えよう」

プラスチックにはいろいろな種類があり、軽い、とか長持ちするという長所がアダとなって、マイクロプラスチックとして世界中に蓄積されていることをお話ししました。また、どこのご家庭にもあるマイクロプラスチックの実物を持って行って、これらの元の形を考えるクイズをしました。人数が比較的少ないこともあって、参加者が気軽に発言できる、とても良い雰囲気の講座ができました。

【第２回】２月21日（金）

「化学物質はどうアブナイ？」

第２回には、１回目の講座で出した宿題「プラゴミを減らすために実行していること」の発表から始まり、それぞれの「宿題発表」に対して、楽しい意見交換ができました。本題の化学物質については、ネオニコチノイド系農薬をテーマにし、実は家庭内で無意識に使っていることがある、というお話をしました。

【第３回】３月６日（金）

「地球温暖化って、むずかしい？」

- 激しくなる災害
- 温暖化の影響（生きもの、農業・漁業、暮らし、etc.）
- グレタ・トゥーンベリさん
- 崖っぷちに追い詰められた私たち

第３回目は、上記のようなお話をする予定でしたが、残念ながら新型コロナウィルス騒ぎで公民館主催事業がすべて中止になったため、開催できませんでした。来年度にぜひ機会を作って、開催したいと考えているところです。

（文責：小倉 久子）

環境教育関東ミーティング開催が中止になりました

２月 29 日（土）から３月１日（日）の２日間、環境教育関東ミーティングが八王子セミナーハウスにおいて行われる予定でしたが、新型コロナウィルス感染拡大の影響を考慮した結果、残念ながら中止となりました。

環境教育関東ミーティングは、環境教育に関心のある方々が集まり、実践発表や情報の共有、交流の場として 2004 年度以来、約５年ごとに開催地を替えながら毎年行われています。他県で環境教育に携わっている方々とお会いする機会はなかなかなく、また、普段は接することのない興味深いテーマについて聴講・参加できるため、得るものが大きいのではないかと期待を寄せている方も多くいらっしゃったかと思います。

環パちばとしては、今年度は荒川が実行委員のメンバーとして参加しており、また、当会の桑波田代表理事が「環境学習について多様な主体とつながるためのヒントを知ろう」をテーマに、分科会でワークショップを開催する予定でした。開催は中止となりましたが、今回をきっかけとして、環パちばとして積極的に協力・参加し、今後の活動に生かしていきたいと思います。

タイトルは“環境教育”関東ミーティングですが、環境教育に携わっている方だけの参加ではなく、多様な分野からアプローチしていただくことで、新たな視点や考え方が生まれる可能性があります。それと同時に、さまざまな団体や人々とつながりを持つことによる相互作用が生まれ、新たな関係も築けるのではないかと思っています。まだ来年度の詳細は決まっていませんが、ぜひ会員の皆様も積極的に参加していただけたら嬉しく思います。　（文責：荒川 薫）

関東 ESD 推進ネットワーク 第３回地域フォーラム 報告

2020 年１月 26 日の午後、東京ウィメンズプラザを会場に関東地方 ESD 活動支援センターが開催。地域 ESD 拠点として参加の報告です。

SDGs は、よりよい未来のための取り組みであり、ユース世代はまさに未来の担い手です。

今後 SDGs を推進するには、ユースと一緒に作っていくプロセスが重要ではないかと、「ユースと創る未来」をフォーラムに参加の皆さんで考えたいとの企画でした。

はじめに、４つの地域 ESD 拠点から、地域で SDGs を推進する実践事例の紹介が。「地域の歴史を学び、未来へとつなげる学び」は、新潟・あがのがわ環境学舎から、かつて公害の発生で苦しんだ地域が、地域の未来を考える学習について。「足元の地学から防災へ、多世代で学んで実践へ」は、神奈川・ほどがや市民活動センターアワーズから、市民の実践的な防災活動につながる、土地を知る講座から実践を生み出していく試みについて。「地域・分野を超えて社会的ケアをプロデュース」は、栃木・NPO 法人エコロジーオンラインから、音楽による認知症ケアや、里山を守りながら高齢者や障がい者の居場所や働く場づくりについて。「学校の内外で進めるさまざまな学びの形」は、東京・ESD TOKYO から、学校内では、企業と連携した映像制作を通じた ESD/SDGs 学習の推進と、学校での学びの機会として SDGs 文化祭を開催した事例について。

それぞれの事例発表後、トークセッション「ユースが考える SDGs」は、SDGs 文化祭で、SDGs について学び、何ができるかを考えた中高生によるセッション。

その後、１～４分科会に移動して事例発表テーマについて意見交換がなされ、全体会で分科会より報告全体ディスカッションという流れになりました。写真は、第４分科会（学校の内外）の人数が多く、ホールでの開催になった様子です。今回の詳細な報告や SDGs 文化祭報告についても、関東地方ESD活動支援センターのHPに掲載されていますので、ぜひ検索してご覧ください。

（文責：横山 清美）

（出典：関東地方ESD活動支援センター）

第 15 回　エコネット近畿情報交流会
「持続可能な社会・なりわい・暮らし ささやまミーティング」

2020 年２月 14（金）～15（土）ユニトピアささやま（兵庫県丹波篠山市）で開催されたこの会に参加しましたので報告します。

ユニトピアささやまはパナソニックグループ労働組合連合会の休暇村で、新大阪からＪＲ宝塚線の特急こうのとりに乗り山間の町々を抜けて約１時間、篠山口駅下車、バスで約 10 分のところにあります。宿泊や会議、屋外活動施設なども充実した広大な森林地帯に囲まれたリゾート施設です。主催はＮＰＯ法人エコネット近畿と一般財団法人セブン-イレブン記念財団、共催は公益財団法人大阪自然環境保全協会、後援には関西２府３県と関西 SDGｓプラットフォーム、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター。参加者は高校生から 80 代まで、学生、市民活動、行政関係者、会社員など立場もさまざま、一人何役も兼ねている人もいて、総勢 109 名という大規模な交流会でした。

全体テーマ「ＳＤＧｓにおける連携、交流の意味とカタチを考える」、目的「近畿地域で活動する団体、個人の出会いと学びあいの場」、「団体の組織運営力、個人のスキルアップを図る」という設定で、自己紹介、事例報告、パネルディスカッション、分科会、ポスターセッションなどが行われました。

そもそもここに参加しようと思ったきっかけは、全体テーマに SDGｓが含まれていたからです。私も積極的に環ぱちばの SDGｓについて学ぶ場に参加し、職務でも SDGｓをどのように取り込んでいけばいいのかずっと取り組んできました。しかし、SDGｓの概念と実際の活動が、例えるなら頭と手足がいまいちぎこちない漠然とした感じが拭えないままだったので、交流会に参加して刺激を得たいと思いました。

交流会の２日間の構成はよく練られ、スタッフの気配りも行き届き言葉遣いも丁寧で、訓練を積んだ力量のある人たちで運営されていることが随所に伝わってきました。

事例紹介者 高田研さん（地球温暖化防止全国ネット理事長、都留文科大学地域社会学科特任教授）の話の中で“必要に迫られ、内発的に関わることが、地域課題を解決する力を生む”、“知識やシステムが生活の上位にあることが、問題解決を阻む要因になっている。生活知と専門知をつなぎ合わさなければいけない”という二つの言葉が、印象に残りました。

17 の分科会が設けられましたが、その中で「はち」の田中秀則さんと、「トランジション川西」の河北栄一さんの分科会に参加しました。地域社会や環境、生活で必要だと思うこと、やりたいことを仕事化。紆余曲折の努力工夫、熱意でトライし続けている。基礎自治体を含めローカルな人と人との良好な関係が大切。そんな点が両者に共通していました。

また、パネルディスカッションでは「ジャムセッション」も度々登場するキーワードでした。ジャムセッションとはミュージシャンたちが集まって即興的に演奏するという意味ですが、そもそもミュージシャンには個々人の演奏の技術が必要で、そのうえで相手の演奏と関係しながら別の新しいものを作っていく。クリエイティブな仕事です。「みんな、クリエイティブな仕事人になろう」、このメッセージがこの会の最大の収穫だったように思います。

オープニングではギターの演奏に合わせて「パプリカ」を歌ったことは、会場に集まったばかりの緊張気味の私たちの心を「飾らず楽しくやりましょう」とほぐしてくれました。市民団体、個人、法人、行政など、立場はさまざまですが、他者からの評価や儲けのためではなく、「持続可能な社会・なりわい・暮らし」が大事、守りたい、良くしたい、という純粋な思いで活動している人たちが集まり、学びあえたことは、素敵なことでした。「楽しかった、また来年も参加したい」、そう思いながら帰路につきました。　（文責：中村 明子）

※職場からの視察で行かせてもらいました。

ポスターセッションで
新宿リサイクル活動センターを紹介

会場風景

令和元年度印旛沼水質保全協議会・手賀沼水環境保全協議会共催勉強会
ー侵略的外来水生植物の管理・駆除についてー

１月 28 日に東葛合同庁舎（松戸市）で開かれた標記勉強会に参加しました。

◆「ナガエツルノゲイトウの管理に向けた研究開発について」（国立研究法人 農研機構　嶺田拓也氏）

農業、特に稲作から見たナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）の実態と管理方法について話されました。農業用水や排水路経由で拡散するので要注意。既に印旛沼流域・手賀沼流域では、沼、河川、農業用水路ばかりか水田の中にも侵入しています。

◆「滋賀県・琵琶湖における侵略的外来植物オオバナミズキンバイ等への対策の経緯と課題」（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保護課　中井克樹氏）

琵琶湖では、ナガエツルノゲイトウよりもやっかいなオオバナミズキンバイが侵入し、あっという間に湖岸や内湖に広がりました。滋賀県では早くからこの植物の対策に取り組んでおり、できるだけ早い段階での機械も使用した大規模駆除と、その後の継続的な小規模駆除の重要性が強調されました。

◆「湖沼等における外来水生植物の繁茂状況・管理手法の調査」（県水質保全課　小田上孝行氏）

海外短期研修でイギリスとフランスを訪問し、繁茂・管理状況を視察した報告でした。

この勉強会には両沼の流域市町職員や議員さんたちもたくさん参加しており、侵略性外来水草異常繁茂の脅威を現実のものとして認識したようでした。県では令和元年度に「湖沼における外来水生植物調査・検討事業」を立ち上げ、主に手賀沼の外来水草の繁茂状況調査や駆除方法の検討を行っています。また来年度には「湖沼における外来水生植物対策事業」として実際に駆除を行う予定ですので、一日も早く、これらの効果が表れるよう願っています。　（文責：小倉 久子）

ナガエツルノゲイトウ

オオバナミズキンバイ

「海の学びシンポジウム」2020 に参加して

２月 11 日、千葉市科学館で「海の学びから東京湾の里山里海へ　～海洋教育の視点から～」という「海の学びシンポジウム」があり、興味深く参加してきました。

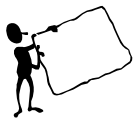
千葉市科学館では「ちばの海」をテーマに、博物館、大学、市民団体と連携してさまざまな海の環境教育プログラムを行っているとのことでした。

シンポジウムでは海の環境活動を持続的に行っていくためにはどうすればよいかについて、教育学研究者小笠原喜康氏による講演「科学と社会と博物館」、パネリストの中村俊彦氏「人が作った生物多様性の宝庫・里山里海の巨大都市」、西原崇浩氏「国史跡山野貝塚から見た縄文時代の海とのかかわり」、崎山直夫氏「新江ノ島水族館で実施している海の学び」の事例発表がありました。その後、来場者も参加して海洋教育についてさまざまな視点での「海の学び」推進に向けた意見交換となりました。

会場には科学館や諸団体が実施している研究の成果のポスター発表もありました。中でも興味深かった発表が「ちば生きもの科学クラブ 2019～海の生きものと私たち～」（対象は小学校４年生～大人）でした。これは、千葉市科学館・動物公園・加曽利貝塚博物館合同の連続講座で、各自がテーマを決め、「調べ方・まとめ方・伝え方を学ぶ」の講座の後、調査・まとめに挑戦する中で、各館の職員・専門家・ボランティアとの交流もあって、最後に「発表会」というものでした。この発表では、「なぜ海に両生類はいないのか」「ペンギンはなぜ飛ばなくなったのか」「谷津干潟生き残り大作戦」「ごみ箱になった鳥」など、テーマを見るだけでも興味津々でした。４月２日～30 日まで千葉市動物公園でも展示発表がありますので、ぜひご覧ください。

（文責：横山清美）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　55　―
おききしました！　この人・この団体



「酒々井里山フォーラム」

酒々井里山フォーラム 会長　小山 端

酒々井里山フォーラムは現在数少なくなりました郡の一つである印旛郡にある、酒々井町を拠点とするボランティアグループです。現在 28 名の会員と４名の賛助会員で構成されています。その発足は、酒々井町にも多く存在する谷津田の一部が荒れ果てていて、足の踏み場もないような状態の整備からでした。なんとか整備したいと思う数名のボランティア（酒々井里山フォーラムの設立メンバー）が地域の人に声をかけ、その賛同を得て、共同で整備を始めたのがきっかけです。約 20 年前のことでした。現在ではすっかり整備され、地元の人のいい散策ルートにもなっています。また、約 10 年前にその努力の甲斐があって、「関東水と緑のネットワーク１００選」にも指定されました。

その活動は谷津田のみではなく、周辺の杉林、自然林にも展開されるようになりました。その地域の所有者と話をして、お互いの同意のもとに整備を始めました。現在の活動は、本佐倉城址に近い西井戸地区と、日本酒の甲子正宗を醸造している飯沼本家の近くの馬橋地区の２地点で、約 2.5ｈａ の地域です。どちらも初期の作業は、森林に入り込んだ孟宗竹の伐採がメインでした。何年か根気よく伐採を続けて、現在では孟宗竹の侵入は、整備地域ではほぼ止まっています。

この２地点以外では、酒々井町地域学校協働本部との協働で、酒々井町に２つある小学校のビオトープの整備を行っています。この活動は、小学生及びその父兄（といってもお母さんが多いです）の参加をいただき、生物調査等も行いながら、池及びその周辺を整備しています。このビオトープにつきましては、酒々井町教育委員会及び千葉県立中央博物館の環境教育研究課の先生のご提案で、印旛沼では絶滅した固有種（主に水草）を埋土種子から再生して、このビオトープで再生培養しようという取り組みを始めたところです。この活動は、まず池の中及びその周辺の外来種の駆除がスタートとなりますが、活動日が第３土曜日の月１回ということで、駆除してもまた生えてくるというイタチごっこを繰り返しています。今年あたりから、水草の生育に取り組みたいと考えています。

これ以外の活動としましては、地域の地主さんから、できたら使ってもらえないかという申し出をいただいた土地を活用して、農園芸体験ということで、野菜を育てて収穫したり、花類あるいはハーブ類を栽培して楽しんでいます。こちらは主に、女性会員の方が活動を行っています。どなたか参加されませんでしょうか（収穫もたまにあります）。

さて現在の酒々井里山フォーラムの現状といいますと、若い人も５～６名会員になっていただいているのですが、まだ現役ということで、なかなか活動への参加は難しいようです。したがって、通常の活動は『昔の若人』が主に行っています。興味深い点としましては、６年ほど前に、偶然ですがヘイケボタルが確認されてから、毎年７月下旬にホタル観察会も行っております。

最後に、現在の会としての問題点としましては、昨年の台風１５、１９号による杉林の倒壊です。馬橋地区では、約１/３の 90 本くらいが中折れあるいは倒壊しています。現在、国の里山保全に対する交付金等の補助もいただきながら、これらの倒木を処理していますが、まだまだかなり時間と手間がかかります。

以上、いろいろ活動していますが、チョット見てみよう、あるいは試験的に参加してみようと思われる奇特な方がいらっしゃれば、是非 E-mail：t_hkoyama@hb.tp1.jp にご連絡いただければ幸いに思います（宛名は小山です）。お待ちしております。

台風後の杉林

順大ＮＰＯと協働の筍掘

運営委員会報告

２月運営委員会

日時　２月１３日（木）15:00～18:00
場所　船橋市民活動センター

【報告】
- ESD 地域リーダー育成事業
  「1 期生ブラシュアップ＆勉強会」1/20
- 新学習指導要領 勉強会　1/16
- ESD 地域リーダー発表会 2/3 午前
- 第３回プラットホームづくり　2/3 午後
- 千葉市次期基本計画「千葉市の 10 年後にめざしたい姿」提言　1/27 提出
- だより 131 号発送
- その他

【協議】
- 環パ HP の構成について検討
- SDGｓを進める ESD プラットホームづくりの次年度の展開について
- 2020 年総会について　5/24
- だより 132 号　・理事会 4/25
- その他

３月運営委員会

日時　３月１７日（火）9:30～12:00
場所　千葉市民活動センター

【報告】
- ESD 地域リーダー育成事業 2019
- 千葉市幕張本郷公民館講座（エコな料理教室）2/22
- 新型コロナウィルスに関わる変更
  中止：環境教育関東ミーティング 2019／暮らしのエコ講座(第３回)／印旛沼流域圏交流会
  延期：千葉アウトドアフォーラム 2020
- 「次世代ボランティア人材育成事業」説明会 2/17
- 千葉県環境審議会企画部会開催報告
- その他

【協議】
- 2019 年度「SDGs 達成のための ESD 担い手事業」まとめ
- 文部科学省　「土曜学習応援団」登録
- 印旛沼環境基金助成事業の応募について
- 令和２年度通常総会運営について
- その他

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば（ＮＰＯ環パちば）通常総会ご案内

会員のみなさま

いつも、格別のご支援をいただきありがとうございます。
ＮＰＯ環パちば 第３回（令和２年度）通常総会を以下の日程で開催します。
本年度の主要事業『ＥＳＤ地域リーダー育成事業』他の事業報告及び来年度事業計画について、
会員の皆様のご審議及びご意見をいただきたく思います。ご多忙と存じますが、ご出席よろしくお願いします。
詳細は、4 月末にご案内させていただきます。
新型コロナウィルスの今後が不明ですが、皆様にはお気をつけてお過ごしください。

開催日時　令和２年５月２４日（日）　１３：３０～
開催場所　千葉市市民会館 会議室６　（千葉県千葉市中央区要町１－１）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。